

学校の教育目標

自主 信頼 努力

私たちが目指す生徒像

進んで学ぶ生徒
思いやりのある生徒
強い意志でやりぬく生徒

生徒の実態

- ・全体的に落ち着いており温和である。
- ・集団で生活する上で必要な決まりや規則を遵守できる生徒が多い。
- ・自主的、自律的に判断する力や主体的に行動する力に弱さが見られる。
- ・学力の底上げと二極化の改善が課題

職員の姿、指導姿勢

- ・元気がある。皆が一生涯懸命で、「マイナスオーラ」を発する職員がいない。
- ・集団として指導することの大切さを理解し、共通行動ができる。
- ・丁寧な指導ができるが温かさと厳しさ、導くと委ねるのバランスが課題

基本姿勢と施策

教師に求める基本姿勢

- 1 基礎・基本の確実な定着を図る丁寧な指導と教師の授業改善で、「学ぶ意欲」を高める。
- 2 学級、学年の仲間づくりを日常生活を基盤として行い、「注意できる関係性」を育てる。
- 3 生徒が行う「価値ある取り組み」を精一杯支援し、「やりぬく強さ」を培う。

第一中教育を充実する9のプラン

基礎・基本の確実な定着を図るための指導と授業改善

- (1) 少人数指導による学習状況に応じたきめ細かな指導
- (2) 市費指導助手等を活用したティームティーチング(TT)によるきめ細かな指導
- (3) 授業改善【改善の視点】・生徒は考えているか。
【授業づくり】・ゴールを明確にする。
・生徒が学ぶ道筋を想起する。
・生徒が「選択する・決定する・責任をもつ場面」を設定する。
・じっくり振り返る「ゆとり」をつくる。

生徒の学級、学年の仲間づくり等の主体的な取り組みに対する積極的な指導

- (4) リーダー指導とフォローアの育成
- (5) 一人一役と支え合いのある班活動
- (6) 呼びかけと呼応のある学級・学年づくり

生徒が行う「価値ある取り組み」に対する積極的な支援・評価

- (7) 生徒会活動の充実 → 例年どおりでないアイデアと参加意欲の高い活動づくり
- (8) 挨拶運動の充実 → 生徒が誇りを感じることができる内容と評価
- (9) 合唱活動の充実 → 学級・学年を単位とした合唱の充実と評価

基盤となる学校の構え

常に危機感をもって生徒指導体制の充実に努める

- ・安定している今だからこそ改善。特に、小さな兆候を見逃さない体制を目指す。
- ・全職員が意識して、「初動が遅い、見届けが甘い、継続性が弱い」指導から脱却する。

人的資源と節目を活用し、適応できない生徒に対する教育相談体制の充実に努める

- ・定期的な調査と日常的な教育相談で、生徒や保護者の「不安・不満・不信」をキャッチする。
- ・教育相談担当を中心にSC、S相、指導助手を活用し、組織的・継続的な指導を行う。

家庭や地域社会を巻き込み、心を育てる道徳教育の充実に努める

- ・道徳の時間の指導を核として、生徒の道徳性を高め、家庭・地域への発信を積極的に行う。

望ましい勤労観や職業観の育成(努力は、いつか何らかの形で報われる)

- ・勤労生産・奉仕的行事、職場体験等を通して、労働や奉仕の尊さ、喜びを実感できるようにするとともに、将来の夢や希望の実現に向けた進路設計ができるように指導する。

安心安全で、明るくさわやかに過ごせる校内環境づくりを生徒とともに進める

- ・安心安全な学校づくりを目指し、生徒とともに、思いやりに欠ける言動の撲滅を目指す。

そこには「教育の原点がある」との認識を持って特別支援教育の充実に努める

- ・個別の教育的ニーズを有する生徒の指導について、学校全体で取り組む体制を充実する。

学校評価システムを活用し、学校運営の改善と信頼される開かれた学校づくりを推進する。

- ・自校評価、学校関係者評価などを踏まえ、学校運営の改善について具体策を策定する。
- ・従前や慣例にとらわれず、変える勇気を持ち、実施する努力を惜しまない。